

## 多彩な人々との活動を再び楽しもう



### 江坂 幸宏

日本分析化学会中部支部・令和5年度支部長の江坂幸宏と申します。現在2月後半ですので、これから始まる任期をやや緊張しながら眺めております。中部地方は、地勢から見れば、東海と中央高地と北陸から構成されています。支部自体もそれぞれの地域が、歴史と風土（と住み着いた人々の人生経験？）によって独特の特色をもっています。それをいい塩梅で活かしていくことが中部支部を支えていく面白味と考えています。

中部支部もコロナ禍で痛めつけられました。人々が集まって、科学について語ることも減ってしまい、特に「それ以前」を知らない学生の皆さんには、知の周りに集う（くすぐったいような）喜びをほとんど知らないまま研究生活を過ごさせてしまった。今年こそ顔を突き合わせて語り合う機会を本気で取り戻さないといけないと思っています。一方で、必要が母となったWeb環境の充実の結果、遠くにいても（ある程度ですが）顔を見て話すことができるようになった…これは、思わぬ贈り物であります。これからは、効率・経済的にはハイブリッドなやり方で身軽になって、対面でも沢山話して、魅力的な科学的生活を送りたいですね。

話は戻るのですが、（どの支部もそうでしょうけれど）離れた地区の人との交流は本当に興味深いです。個人や地域に根づく個性豊かに大切にしているもの（考え）を見せてもらうと多くの気づきがあります。そして、また会おう、それまでにオドカすネタを仕入れておくよと言って、夫々研究室に帰って懸命にやってみるわけです。今や情報はインターネットを通してものすごい速さでやり取りされますが、それで十分とは言えないでしょう。相手と議論することで自分を知ることできます。自分の研究で起こっている現象に気づいたり、文殊の知恵が授かったり、意気投合できる知己を得たり、そういう場を積極的に作りましょう。もう一度火を起こす大変さはあるのですが、一緒にやっていただけたらと心から願っています。

今年は、本部の仕事もあり、全国の皆さん（企業、学校、研究機関の方々）と今まで以上にお話しする機会がありそうです。皆さんにとって参加する価値のある学会活動を求め続けることが、学会、そして科学の発展につながり、自分達のためにもなります。言うは易しです。でも、地道に具体的にやることを考えてみたいのです。ワクワクしながら科学をする人が増えれば、その“さざ波”が集まって、大きな波になります。皆が「集ってよかった、楽しかった、元気になった、もっと頑張る」といえる学会をつくるメンバーでありたいと思います。

〔Yukihiko ESACA, 岐阜薬科大学, 日本分析化学会中部支部支部長〕